

## 岐阜農林事務所の普及活動状況 令和5年 11 月 30 日現在

### 今月の重点活動

#### ■新規就農者 令和5年度岐阜地域農業担い手情報交換会開催

岐阜農林事務所は11月14日、岐阜県シンクタンク庁舎を会場に「農業担い手情報交換会」を開催した。岐阜地域の市町、JAなどで構成する岐阜地域農業改良普及事業推進協議会、岐阜地域就農支援協議会との共催で、就農5年目未満の若手農業者と担い手リーダーの代表者等の先進的農業経営者、関係機関担当者を参集して毎年開催している。この情報交換会は、新規就農者の技術向上と経営の安定、また新規就農者が孤立することなく、地域農業の担い手として独り立ちできるようにすることを目的に開催するもので、81名が出席した。

当日は、今年度新規に就農した農業者が自己紹介を行った後、就農応援隊長を務める女性農業経営アドバイザー岐阜ブロックの高田住代会長から激励の言葉をいただいた。その後、羽島市で水稻経営を行う先輩新規就農者のアグリテック羽島(株)渡邊裕介代表取締役による事例発表と、(有)木之内農園の木之内均代表取締役会長による講演を行った。

講師の木之内氏は神奈川県出身の非農家で、大学卒業後に熊本県で農業に新規参入された。その後法人化して経営を発展されるとともに、山口県の大型農場「花の海」を設立されるなど経営を拡大されており、経営の変遷やその時々を経営者としての考え方などを講演いただいた。

事例発表や講演では出席者から質問が多く出され、時間を延長する盛り上がりとなった。情報交換会終了後には、別会場で懇親会も開催し、参加者による交流を深めた。



【自己紹介をする新規就農者】

(農業普及課長)

### ぎふ農業・農村を支える人材育成

#### ■岐阜農林高校 『農業の現場を学ぶ出前講座』を開催

11月17日、岐阜県立岐阜農林高等学校において、「農業の現場を学ぶ出前講座」が開催された。この講座は、県内で活躍する若手農業者を派遣し、農業の現状や就農からの経験、経営の考え方を伝えることで、生徒の農業への理解を深め、就農を含めた進路選択の参考とすることを目的に、農林事務所が農林高校と連携して実施している。

当日は、岐阜地域青年農業士連絡協議会会員で、羽島市で施設園芸（ミニトマト・きゅうり）と露地野菜（たまねぎ・さつまいも）に取り組む石原農園の石原宏紀氏が「農業は魅力的である」というテーマで園芸科学科1年生生徒40名に講義を行った。

講師は、「農業はきつい仕事で、儲からないと思われているが、実際は可能性に溢れた仕事である」と強調し、IoTを活用したハウス施設作業の効率化や販路確保による収益向上等の取り組みについて説明がされると、生徒は真剣な表情で話を聞く様子が伺えた。また、生徒との質疑応答においては、「今後の新たな取り組み」等について、やりとりが行われた。

令和6年2月には流通科学科2年生を対象とした出前講座開催を予定しており、農林事務所は講師等との打合せ準備を進めていく。



【出前講座の様子】

(地域支援第一係)

## 安心で身近な「ぎふの食」づくり

### ■小麦 播種作業が始まる

管内では農業法人や大規模個人農家が稲刈後の水田を活用して小麦を栽培しており、令和6年産は約500haの作付けが計画されている。栽培品種は準硬質小麦でパン・麺用途に向く「タマイズミ」で、10月26日から播種作業が始まった。

農林事務所は、栽培暦の作成や個別面談により、排水対策の徹底と適期播種の実施を進めてきており、例年作業が遅くなる地域も11月上旬の播種作業が開始されている。また、播種作業開始時に立会い、適度な深さになるよう播種深度のチェックを生産者で行うなど、安定生産に向けた支援も行っている。

今年は11月上旬から定期的に降雨があり、播種作業は一時中断を繰り返しながら進められているが、これまでのところ発芽は良好で、早いところでは分けつが始まっている。今後、農林事務所では各地域に調査ほを設けて生育状況を把握するとともに、雑草対策や施肥管理について指導し、令和6年産小麦の安定生産を図っていく。



【播種深度を確認】

(地域支援第三係)

## ぎふ農畜水産物のブランド展開

### ■いちご 栽培研修会の開催

JAぎふ岐阜市いちご部会の栽培研修会が10月31日に合渡支部、11月1日に木田支部で行われ、計26名の生産者が参加した。秋期の高温による花芽分化への影響と今後の対策、厳寒期に向けた栽培管理について講習を行い、生育に合わせた栽培管理の徹底を呼びかけた。木田支部では、栽培状況と今年作の目標について各自話してもらう情報交換の時間を設け、問題になっていること、導入したい技術などについて部会員同士で意見交換し、有意義な時間とした。



【研修会の様子】

管内では、11月16日の岐阜市いちご部会を皮切りに各生産部会で出荷目揃え会が開催されており、令和5年作の出荷はこれから約7ヶ月続く。農林事務所は引き続き「岐阜いちご」の安定生産・良品出荷に向けて支援を行っていく。

(園芸産地支援第二係)

### ■花き 本巣郡花き振興会が県農業フェスティバルへ出店

県内の花き生産は、平成15年をピークに減少傾向にあり、本年5月の新型コロナウイルス感染症対策による行動制限緩和以降も厳しい販売情勢が続いている。さらに燃料や電力、農業資材の高騰も重なり、花き生産者にとって厳しい経営環境となっている。今後の経営の継続と発展には、花き需要の底上げや消費者ニーズに沿った商品開発を進めるなど、生産者自らの取り組みが重要となっている。



【当日の販売の様子】

旧本巣郡域(瑞穂市・本巣市・北方町)の花き生産者で構成される「本巣郡花き振興会」は、10月28日(土)～29日(日)の2日間、4年ぶりに開催された県農業フェスティバルに出展し、花の直接販売を通して「本巣の花」をPRした。農林事務所は出店準備から当日の販売、PRに至るまでの業務の支援を行った。当日は、生産者自らが商品説明や販売対応を行い、直接消費者との対話を通して消費者ニーズなどの情報を得る機会となった。

農林事務所は、今後も振興会活動を通して花きPRなど生産振興に向けた支援を続ける。

(園芸産地支援第一係)

## ■にんじん 令和5年産冬にんじんの出荷開始

各務原市園芸振興会にんじん部会は 11 月 11 日、JA ぎふ各務原にんじん選果場で出荷説明会を開催した。

各務原市のにんじんは鵜沼地区に広がる黒ぼく土壌で、春と冬に収穫時期を迎える全国的にも珍しい二期作での栽培が行われており、同日から令和5年産冬にんじんの出荷が開始された。当日は、JA から出荷基準等の説明が行われ、農林事務所は病害防除等に関する情報提供を行った。

農林事務所では、各務原市に適した冬作優良品種の選定や低コスト化緩効性配合肥料の実証を、にんじん部会のブランド推進委員を務めている生産者ほ場で実施している。本作の実証は調査結果は、次年度作に役立ててもらおうよう栽培講習会において情報提供を行うこととしている。



【冬にんじん出荷説明会の様子】

(地域支援第二係)